



発行所
公益社団法人 国民文化研究会
(九州←東京←全国)
東京都渋谷区東1-13-1-402
振替 00170-1-60507
電話 03-5468-6230
FAX 03-5468-1470
http://www.kokubunken.or.jp/
E-mail: info@kokubunken.or.jp
月刊「国民同胞」編集部
毎月一回10日発行
購読料 年間2000円

原発「処理水」の海洋放出に思ふ

―「五箇条の御誓文は生きてゐる」―

今村武人

「処理水」の海洋放出

東京電力福島第一原発の処理水の海洋放出が始まった八月二十四日から二ヶ月余が経った。この処置は厳格なる国の検査で、安全であることが科学的に証明されてゐる。現下の問題は一つは「風評被害」である。このことは全漁連会長が首相との会談で、処理水の海洋放出への理解は進みつつあるが「反対」だと表明せざるを得なかったことにも表れてゐる。政府は合計八百億円の基金を創設し、風評被害の対策を講じたのは当然としても、廃炉までに三、四十年かかることから、全過程にわたる国民の支援体制の構築が必要である。

対応の相違 ―日本人と中国人―

日本政府のこの苦渋の決断を多くの国が理解してゐる。IAEA（国際原子力機関）も科学的根拠に基づき人体への影響はないとし

て最後まで関与するといふ。ところが、国際社会の中で海洋放出に「強い反対」を表明してゐるのが中国である。中国は、九月末のIAEA総会でもその調査結果を一顧だにせずに、「核汚染水」と言つて日本からの海産物の輸入禁止を続けてゐる。正確な情報を知らされてゐない中国人は、対日情報工作を真に受けて日本各地の料理店や公共施設等に嫌がらせの電話をして、風評による経済的損失を煽つた。

これに対して日本人は異なつた対応をした。例へば全国の自治体から福島県へは食材供給に関する問い合わせが相次いだといふし、また福島県いわき市では、これまで「ふるさと納税」の返礼品に地元産の魚介類の加工品を用意してきたが、「処理水」放出後、寄付が急増したといふ。**日本人の義侠心と「公論尊重」**

この日本人の「強きを挫き弱きを助ける」義侠心はどこから来るのだらう。無論、中国の理不尽な態度に対する反発が理由であるといふことぐらゐは容易に察しがつく。だがそれだけか。かつて元尚絅学園監事の徳永正巳先生（国文研理事）は「五箇条の御誓文は生きてゐる」と仰つてゐたが、私も改めてさう思ふ。

明治の日本は西洋の強圧的な植民地主義に対して、武力に訴へるのではなく、西洋列強から政治制度はじめ様々な文物を導入した。不平等条約へも臆を露にはせず、「二等国」と認められるまで、国民が一九となつて愚直なまでに血の滲む努力を重ねた。その努力を内から支へたものは明治元年布告の「広ク会議ヲ興シ万機公論ニ決スベシ」で始まる「五箇条の御誓文」であつたと思ふ。

もし、御誓文の精神的バックボーンがなく、為政者が強権的に西洋の政治制度を導入したとしたらわが国は一つにまとまらず、旧幕府時代の譜代偏向のやうな政治が続き、現中国の「一党独裁制」の如きものになつてゐたかもしれない。

「上下心ヲ一ニシテ盛ニ經綸ヲ行フベシ」

「五箇条の御誓文」は、学校を通して広く一般の人々も学ぶこと

になる。人々は、御誓文が掲げた「公論」の尊重が明治維新の精神であることを知つて、国のあり方や日本人の道徳観などを共通のテーマとして思考し始めた。「国民」としての自覚の芽生えであつた。戦後の日本人は長く国民としての自覚が希薄になつてゐると指摘されてきた。しかし、譬へば古い櫓でも表面の皮を削れば香しさが残つてゐるやうに、「処理水」の放出についての国民の態度を見れば、ふだんは忘れたかに見えても国家的難題に対しては日本人は、御誓文が示すやうに「上下心ヲ一ニシテ、盛ニ經綸ヲ行フ」のである。

今回の処理水放出をめぐる日本人の行動は、単に処理水が人体に影響がないとする検査結果を理解したからではない。現地の人々も同じ国民「同胞」であると信じたからである。政府も国民を信じて、歴史を踏まへた大局的判断をすれば国民は必ずそれに応へるのだ。

問題なのは、わが国の歴史や先人の生き方が今日の政治に生かされてゐないことである。「公」よりも、「私」「個人」を重視すれば国家はやがて危殆に瀕するだらう。健全な「国民」を育てる歴史教育が求められる所以もここにある。

(熊本マリスト学園講師)